

かがやけ☆いすみの子☆

布施学校組合立布施小学校の紹介

布施学校組合立布施小学校の紹介

本校は、千葉県で唯一の学校組合立の学校で、いすみ市と御宿町に住んでいる児童が通っています。12名の教職員が全校児童29名（21家庭）を指導・支援する、家庭的な雰囲気の学校です。

本校は、学校教育目標を「ふるさと布施を愛し、豊かな心と確かな学力を備えた、心身ともにたくましい児童の育成」とし、地域・家庭とともに歩む、みんなの笑顔あふれる学校をめざしています。この教育目標には、ふるさとを愛し、生涯にわたってふるさとを誇りに思える児童の育成という願いをこめています。

地域のポテンシャルを生かした体験学習の充実

〈米作り〉

学校近くの田んぼを借用して、総合学習の時間に5年生が米作りに取り組んでいます。地域の先生から学び、田植えや稲刈りを体験します。初めて経験する児童がほとんどで、実際に米作りを体験することによって、農家の苦労や工夫、働く人への感謝の気持ちや食べ物の大切さを学ぶよい機会となっています。



〈地域の自然や歴史を生かした取組〉

毎年11月に学校にお子さんが通っていない地域の皆さんも招待し、「布施まつり（学習発表会）」を行っています。現在は、感染症予防のため、規模を縮小しています。昨年は、自然観察で調べたことや、古くから伝わる民話を劇にして発表しました。自然観察では、水辺の生き物を中心に探し、名前や生態を調べたり、環境について考えたり、学習を深め、地域を見直すきっかけとなりました。

また、劇での発表では、方言や地元でとれる野菜や海産物などについて、工夫して表現することができました。地域の特徴を生かした学習を進めることで、自分たちの住む地域を大切にしたいという思いを育てることにつながっています。



自己有用感の育成

〈縦割り班活動〉

6年生がリーダーとなり、掃除や休み時間の活動、1年生を迎える全校遠足など、様々な活動に取り組んでいます。上級生が下級生に掃除の仕方を教えたり、遠足の班活動で面倒をみたりしながら、人間関係づくりをしています。下級生は、「カッコいい6年生のようになりたい。」と6年生にあこがれています。学年が上がるにつれ頼られる存在になり、自己有用感を高める活動の一つとなっています。

